



福岡市科学館  
FUKUOKA CITY SCIENCE MUSEUM

第2回

SDGs Family conference

SDGs

家族会議

in FUKUOKA

笑顔あふれる未来のために何ができるだろう

報告書

2022年7月～12月

# SDGs家族会議 in FUKUOKA

## 笑顔あふれる未来のために 何ができるだろう

私たちの生活をこのまま続けると地球はどうなるのでしょうか。

世界中の人人が安心して暮らすために

私たちが普段の生活でできることは何でしょうか。

2015年9月の国連サミットで、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指すため、  
17のゴール・169のターゲットから構成される  
SDGs (Sustainable Development Goals) が採択されました。

SDGs家族会議は、この持続可能な社会というテーマに家族単位で向き合うワークショップです。  
2022年度は7つの家族が3つのチームに分かれ、専門家のお話を聞いたり野外学習を体験し、  
高校生・大学生のサポーターとともに話し合いを重ね、2030年の未来プランを描きました。



もくじ	SDGs家族会議の目的	01	思考プロセス: ポケオミチーム	11・12
	ごあいさつ	02	最終発表: ポケオミチーム	13・14
	SDGs家族会議の概要	03・04	思考プロセス: マイクラチーム	15・16
	ワークショップの進め方について	04	最終発表: マイクラチーム	17・18
	各回概要: 第1回	05	思考プロセス: ロケットアベンジャーズチーム	19・20
	各回概要: 第2回、第3回	06	最終発表: ロケットアベンジャーズチーム	21・22
	各回概要: 第4回	07	さいごに	23・24
	各回概要: 第5回、第6回	08	審査員／事務局	25
	各回概要: 第8回	09・10	協力	26

## ごあいさつ

地球の温暖化が進み、水害などの大規模災害が増えています。

このため温暖化の原因となる二酸化炭素のはい出を減らす努力が続けられています。

そのなかで、二酸化炭素のはい出を減らすには、教育・経済・生物多様性など、

多くの課題をいっしょに解決しなければならないことがわかりました。

そこでSDGsの17目標を達成するために知恵をしぼっています。

SDGs家族会議 in FUKUOKAでは、小中学生とその家族が一緒になって、  
SDGsの目標達成に向かって、私たちに何ができるのかを考えました。

この報告書は参加者のみんなの学びの記録です。

参加者は、九州大学伊都キャンパス生物多様性保全ゾーンや九州北部豪雨被災地を見学し、  
開発と保全が両立できること、

復興の現場では多くの関係者が協力して知恵を出し合っていることを学びました。

また、現場で活やくしている3人の先生から学び、

メンターからアドバイスを受けながら、自分達で調べ、考え、話あって提案をまとめました。

とくに、一人ひとりが明日からできることを提案するために知恵をしぼりました。

発表会でみんなが提案してくれたアイデアはとても希望がもてる内容でした。

この報告書で学びと提案をふりかえりながら、みんなのアイデアを実行にうつし、

協力の輪をひろげていきましょう。



福岡市科学館館長 矢原徹一

# SDGs家族会議の概要

対象	参加方法
<ul style="list-style-type: none"><li>・小学4年～中学生を含む家族</li><li>・2030年の明るい未来を望んでいる</li><li>・夏の自由研究でSDGsを調べたい</li><li>・SDGs、まちづくり、カーボンニュートラルに興味関心がある</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・申込はホームページから。</li><li>受付は6月1日(水)12:00～7月15日(金)23:59</li><li>・応募者数が定員を超えた場合は、抽選にて参加者を決定</li><li>・抽選結果は、応募者全員にメールでお知らせ</li><li>・参加費:3,000円/家族(野外学習のバス代除く)</li></ul>
<b>ワークショップの流れ</b>	
2～3家族が1つのチームを作り、約半年間をかけて2030年のSDGs達成に向けた話し合いをおこないます。各チームには大学生・高校生がサポート役として加わり、いろいろな意見を引き出します。	
	
①チーム作り 3つのチームに分かれ、それぞれの興味や知識を共有します。	糸島・朝倉地区などを訪問し、現地での実態に触れることで、社会・自然とのかかわり方を学びます
②野外学習 福岡2030未来設計図を描くために、各回のテーマに沿って、会議を進めます	これまで話し合ってきたチームの意見をまとめ発表できるように準備します
③話し合い これまで話し合ってきたチームの意見をまとめ発表できるように準備します	④まとめ これまで話し合ってきたチームの意見をまとめ発表できるように準備します
講 師	<p>矢原 徹一 : 福岡市科学館 館長, 九州大学大学院理学研究院 名誉教授 西村 俊彦 : 福岡市科学館 顧問, SDGs家族会議 審査委員長 安田 章人 : 九州大学 基幹教育院 准教授 島谷 幸宏 : 熊本県立大学 特別教授, 九州大学 名誉教授 坂井 猛 : 九州大学 キャンパス計画室 副室長, 九州大学大学院人間環境学府・工学部建築学科 教授  比良松 道一 : 九州大学 持続可能な社会のための決断科学センター 准教授 三谷 泰浩 : 九州大学 アジア防災研究センター 教授 村川 友美 : (株)リバー・ヴィレッジ 代表  コメンテーター 春日 文子 : フューチャー・アース国際事務局 日本ハブ事務局長, 国立環境研究所 特任フェロー 佐座 槟苗 : 一般社団法人SWiTCH 代表理事  ワークショップ リーダー 中川 普巳重 : 福岡大学 研究推進部 客員教授, 産学官連携センター 産学官連携コーディネーター  ファシリテーター 江口 久美 : 九州大学 持続可能な社会のための決断科学センター 特任助教 九州オープンユニバーシティ研究部 研究員</p>
	※敬称略

回	日時	内容	講師	場所
第1回	7月17日(日) 09:40～12:00	チームづくり +講話+話し合い	西村俊彦、矢原徹一、 中川普巳重	福岡市科学館
第2回	7月31日(日) 09:40～12:00	講話+話し合い	安田章人	福岡市科学館
第3回	8月 7日(日) 09:40～12:00	講話+話し合い	島谷幸宏	福岡市科学館
第4回	8月21日(日) 10:00～15:00	野外学習	矢原徹一、比良松道一、 坂井猛	九州大学 伊都キャンパス
第5回	9月19日(月・祝) 10:00～12:00	講話+話し合い	江口久美	福岡市科学館
第6回	10月 9日(日) 09:40～12:00	講話+話し合い	村川友美	福岡市科学館
第7回	10月30日(日) 09:40～12:00	話し合い		福岡市科学館
第8回	11月 3日(木・祝) 09:00～ 終日	野外学習	三谷泰浩	朝倉市, 朝倉郡東峰村
第9回	11月 6日(日) 09:40～12:00	質問+話し合い	安田章人	福岡市科学館
第10回	11月20日(日) 09:40～12:00	中間発表会	春日文子、佐座楨苗 (コメンテーター)	福岡市科学館
第11回	12月 4日(日) 09:40～12:00	まとめ		福岡市科学館
第12回	12月18日(日) 10:00～12:45	発表会		福岡市科学館
				※敬称略

## ワークショップの進め方について

ワークショップは「みんなでつくる活動」です。講師の話・体験・見学を通しての学び(インプット)を、みんなで考え話し合い、アイデアを形に(アウトプット)していきます。自由に発言・アイデアを出し、他人の意見を否定しない、わからなくても大丈夫、ということを基本に進めます。

準備 → 開始 → 発散 → 収束 → 終了

### プログラム構成の考え方

- 1 何に関心があるのか?なぜ関心をもったのか?などの想いを共有する
- 2 2030年にこんな未来だったら、についてのアイデアを出し合う
- 3 そのためには、どうしたらよいのか?について考える
- 4 具体的にイメージし、情報収集を行う
- 5 プランを考え、実際に試してみてもよい
- 6 どうしたら実現できるかを考える
- 7 発表に向け、ストーリーを考える

“ワークショップ”→“みんなの活動”を繰り返しながら、考えをまとめ、全体発表につなげる



ワークショップ → みんなの活動 → ワークショップ → → → 全体発表

## 各回概要

第1回

### はじめまして。7家族が集まってキックオフ!

講話+  
話し合い

初回は科学館に集まり、矢原館長の講話に続いて、家族とサポーターが初顔合わせ。チーム分けも発表され、各チームごとに自己紹介と、どんなことに興味がある?どうして参加したの?などおしゃべりしながら仲良くなり、チーム名も決めました。オンラインで参加するご家族もいて、これからのWEBミーティングの練習にもなりました。

#### 「世界をもっと良くしよう」



地球温暖化など悪いニュースもありますが、福岡の空気環境は改善されています。福岡は緑が多く水のきれいな公園などもあり生物環境も豊か。世界をもっと良くするために、これから5ヶ月間、みんなで考えていきましょう。

矢原館長



### 福岡の未来を一緒に考えていくチームが決まりました!

#### ポケオミチーム

小野家・宮崎家



サポーター



#### マイクラチーム

安部家・亀井家



サポーター



#### ロケットアベンジャーズチーム

梅田家・鷺見家・松藤家



サポーター



第2回

### 人も生き物も幸せになる方法と一緒に考えてみよう

講話+  
話し合い

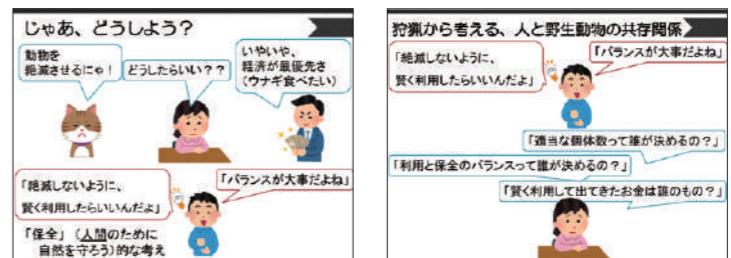
広義の環境の中で、どう生きるべきかを考える学問を研究している安田章人先生から「狩猟に注目して、われわれは、どうやって野生動物と生きていくべきか」についてお話を聞きました。

#### 「人と生き物が仲良く暮らす世界とは?」



安田先生

人とその他の生き物の関係性の歴史では、人による乱獲などが原因でたくさんの種が絶滅してきました。ニホンウナギやアメリカカブトガニを例に、いまの人と生き物の関係は良好な部分もあることも学びましたが、人が暮らしていく上ではイノシシやシカのように増えすぎて困ることもあります。人間のために自然を守る「保全」と自然のために自然を守る「保存」はどちらが大事なのでしょう。狩猟では「保全」を意識しバランスを考えながら動物を殺します。人も生き物も幸せになる方法をみんなも一緒に考えてみましょう。



第3回

### 雨水をゆっくり地面にかえす

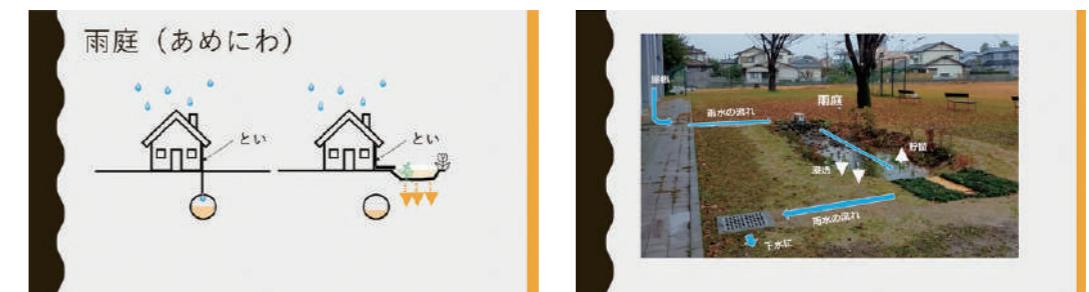
講話+  
話し合い

河川工学、河川環境、最近は、グリーンインフラ、あまみず社会、小水力発電導入等に取り組んでいる島谷先生から雨庭についてのお話を聞きました。



島谷先生

雨は空から降ってくる水です。おや? 降った水はそれからどうなっているのかな。コンクリートやアスファルトの上に降った水は、染み込むことができないので雨どいや側溝を通って下水に流れていき、森や土のあるところでは、地面に浸透して地下水となります。街は土の地面が少ないので、下水に流れる水の量が多く、多量の雨が降るとすぐに川の水もいっぱいになり洪水などの災害につながってしまいます。そうならないために、みんなが工夫できること、それが「あめにわ」です。



## 各回概要



### 第4回 九大伊都キャンパス計画の持続可能な開発とは?

矢原館長、坂井先生の講話と九大伊都キャンパス保全緑地での野外活動を通して開発と保全の両立(持続可能な開発、自然や生きものの保全)を学びました。また「お弁当の日」の取り組み(何を作るか、買い物、食材選び、調理、後片付け)を通してフードロスや飢餓、家族への感謝、つながり等について考えます。

#### 開発と保全の両立

九州大学新キャンパスはおよそ20年前に整備されました。もとの森や池、谷を残し自然や生き物が豊かなキャンパスにするにはどうすればよいかを考えてできたのが、今の伊都キャンパスです。



#### 伊都キャンパスの計画・建設・運用—SDGsとの関わり



九大移転の話が出たときから、持続可能なキャンパスをつくるためにたくさんの話し合いが行われました。六本松、箱崎、原町の3つのキャンパスが統合され、伊都に移転。その計画には、都市、土木、建築、造園、農場、緑地、生態、考古学、法律、経済等、多分野の専門家が参加しました。排水を再生水として利用するシステムや自家発電装置を備え、CO<sub>2</sub>を排出しないバリアフリーな乗り物で移動できるしくみもあります。



#### 「弁当の日」～テーマは「持続可能な弁当」～



「弁当の日」は、自分で料理を作れる人が増えると給食残食を減らせるなど世の中が持続可能な方向へシフトする、という考えに基づき、子ども自身が自分の弁当を作る取り組みです。

##### ●実施の方法(弁当の日のルール)

買い物から後片付けまで自分でやってみるorできることにチャレンジする「イナマス方式」

##### ●発表

プラスチックでない弁当箱、有機農産物、コロナ禍・災害支援など、使用した食材や作った弁当のどんな点が持続可能なのか、苦労したことや工夫したこと、作ってみて気づいたことを発表しました。



### 第5回 大濠公園の景観とその歴史的背景とは?

わたしたちにとって身近に自然を感じられる場所が公園です。福岡市内には多くの公園があり、中でも広く、たくさんの人が集まる公園が大濠公園です。台風のため中止になってしまいましたが、計画では大濠公園の秘密を探るため、現地の浄水施設を見学予定でした。



大濠公園にはどんな特徴があるのでしょうか?他の公園と比べて、池がとても大きくて特徴的ですね。現在の池は、昔は草香江という名前の入江でした。この入江が江戸時代に埋め立てられ、慶長年間(1600年頃)に福岡城が建設され、外濠として使われました。その後、大正14(1925)年に周回道路のある外濠の水面を生かした公園として設計されました。昭和2(1927)年に大濠公園は博覧会会場に整備されたのち、昭和4(1929)年に県営大濠公園として開園したのです。



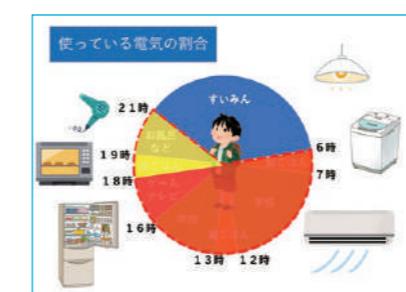
### 第6回 水力発電～少ない水量で発電する工夫

河川や生態、地質、地域づくり、歴史(郷土史)などの高度な専門性を活かして、地域での小水力発電にチャレンジする、九州大学発のベンチャー企業「リバー・ヴィレッジ」代表の村川氏に、地域固有の資源である「水」を活かしたエネルギー創出の取り組みについてお話を聞きました。

#### 「地域資源としての水と水力発電」



普段の暮らしのどこでたくさん電気を使っているのか考えてみると、ゲームをしたりご飯を食べたりする際に、リビングや台所でよく使われていることがわかります。そんな電気は、様々な発電方法でつくりだされていますが、今日は、水力発電に注目して考えます。水力発電は自然の中にある力を利用して作るので、自然エネルギーと呼ばれていて、地球温暖化の原因になる二酸化炭素を出さずに電気を作る方法の一つです。



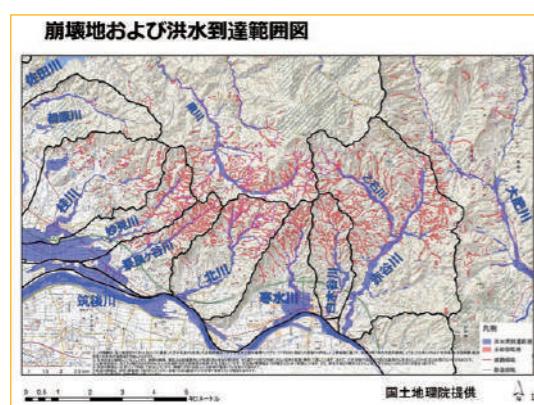
# 各回概要

第8回

## 自然災害について考えよう～豪雨災害地の復旧と復興

2017年7月5日から降り始めた数日間の豪雨により九州北部地方に甚大な被害が発生し、多くの命が失われる大災害が起こりました。筑後川右岸側の支川流域においては、同時に斜面崩壊が発生するとともに、土石流災害が発生。大量の土砂や流木が流下し平野部を襲いました。平成29年7月九州北部豪雨から5年。いまもその被害からの復興に向けて、朝倉地区や東峰村では河川改修工事が続いている。

今回の見学では、斜面崩壊を起こした山間から河川流域に沿って移動しながら被災地の現在の様子や今行われている復旧工事の現場を見学しました。元の川の形に戻すのではなく、今後大雨による同様の被害が出ないように川の流れを変えていたり、生き物も住みやすい川にするために護岸が工夫されていたりすることがわかりました。ほかにも、土砂災害時に流れてきた土に触れ、崩れやすい山の土について説明を聞いたり、透過型砂防ダムの実物を見て被害を防ぐ工夫を学んだりしました。



みんな今日は  
どんなことを感じたかな?

### 野外学習スケジュール

- 9:00 科学館出発  
バス車内で三谷先生の講話と資料映像を見ながら移動
- 10:50 赤谷川 河口見学
- 11:20 宝珠山川 上流見学
- 11:50 棚田親水公園にて昼食
- 13:00 乙石川工事現場見学
- 14:00 松末小学校見学
- 16:00 科学館到着



野外学習

### 野外見学マップ

見学ルート



#### 1 赤谷川河口

川幅は災害前より広げ、護岸は周辺の景観ともマッチするように、コンクリートだけでなく災害で流れてきた天然の石を積み上げて作っている。これは生き物の環境を守ることにもつながっている。



#### 2 宝珠山川上流

大きな土石流が発生した場所。災害時の写真と見くらべると、流木も片づけられきれいになっていることがわかる。



#### 3 棚田親水公園

宝珠山川と緑の美しい公園でお昼ごはん。



#### 4 乙石川工事現場

花崗岩が風化してできた、ボロボロと崩れやすい「真砂土」を触った。水害時に氾濫した川の上流の山は「真砂土」が斜面を覆っていた。



水は流すが大きい石や流木は止める透過型の砂防ダムができている。



斜面の保護には植生マットという表面に草が生えるようにする工法も取り入れられていた。



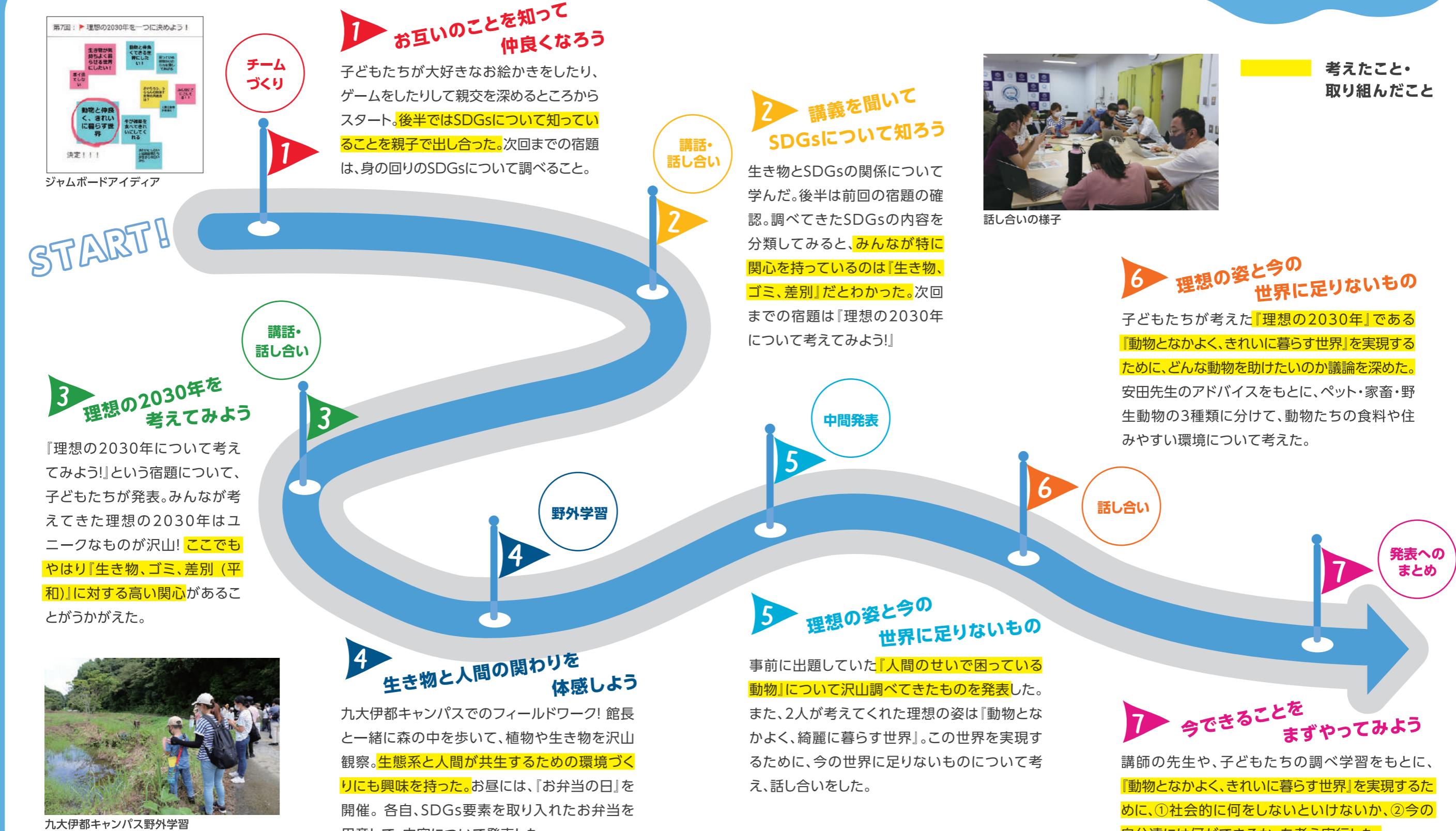
#### 5 松末小学校

当時川幅が7mしかなかった川に流木が詰まり、大量の雨水とともに小学校に流れ込んだ。災害当日は子どもたちを帰宅させずに3階に避難したとのこと。当時の爪痕があちこちに残っている。



各チームが講話や野外活動を通して考え、話し合ったことをまとめ、最終発表につなげていきました。

## [1] ポケオミチーム





ポケオミチーム

# 「動物とかよく、きれいに暮らすために」

ポケオミチーム 小野家・宮崎家／サポーター 梶原・香西・西村・森本(高校生)



循環型社会を  
目指しま賞  
【西部ガスホールディングス】

RKBミライ  
アングル賞

スタンフォード  
のびしろ期待賞

## これから目指していく社会

私たちは、日々様々な動物たちと関わりながら過ごしています。しかし、人間が増加している今日、動物たちは急激に減少しています。

動物好きが集まったポケオミチームでは、動物と人間がなかよく暮らしなくなっているのではないかと考え、理想的の2030年を『動物とかよく、きれいに暮らす世界』に決めました。

そして、自分たちの大好きな動物が困っていること、それに対して私たちにできることを調べました。



私が大好きな海の生き物たち

## 2030年に達成すべき持続可能な世界 の姿

ニホンカワウソは、毛皮目的の乱獲や人間のための開発による環境変化で絶滅してしまいました。海にすむ魚は、人間の生活排水等が原因で起こる赤潮に度々苦しめられています。このようないきものたちの困り事を解決し、理想の2030年を実現するため、私たちは3つの目標を掲げました。

1つ目は「絶滅危惧種を増やさない」ことです。まずは困っている動物、絶滅しそうな動物がいることを知り、その動物たちに興味を持て欲しいと思います。

2つ目は「人間優先の生活を改める」ことです。人間の都合で動物に迷惑をかけるようなことがないようにしましょう。

3つ目は「動物たちも同じ地球で生活する仲間と考える」ことです。人間は人間、動物は動物と分けて考えるのではなく、動物たちを同じ地球で生活する仲間として考えてみて下さい。

## 発表を聞いてくれているあなたへ

小野家・宮崎家の提案

『動物とかよく、きれいに暮らす世界』を実現するためには私たちの力だけでは足りません。

- ① 動物たちが減っていることを知る
- ② 動物たちのためにできることを一緒に考える
- ③ ポイ捨てをしない、落ちているゴミを拾う

ポケモンでは、最初に3匹の中から1匹を仲間にします。読んで下さった皆さん、この3つの中から何を選んでくれますか?みんなで一緒に「環境マスター」を目指しましょう!

-ポケオミチームは  
小野家・宮崎家協同で提案をまとめました-

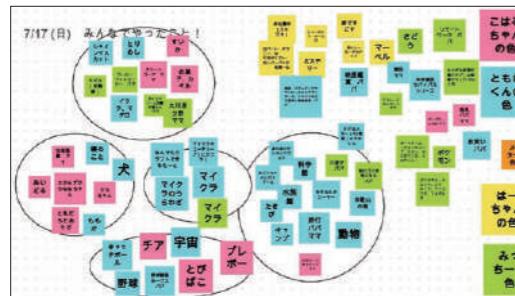


発表の様子

## [2] マイクラチーム

マイクラの  
思考プロセスを  
みてみよう

【第1回-11回で話し合ったこと】



ジャムボードアイディア

最初に、先生方に植物の名前や特徴を教えてもらいながら伊都キャンパスの森を探査。山の土がふかふかなことに驚くなど、実際に体験してみると気づけなかったことも多かったようだ。興味が引き出され、質問も多かった。探索の後は、SDGsをテーマにして各自で作ってきたお弁当を食べ、学びの多い1日となった。



朝倉野外実習



お弁当の日

**START!**

**1**  
ジャムボードを  
使ってみんなの  
興味を探ろう

チーム作り

野外学習

**2**  
講話を聴いて  
自分の興味がある  
テーマを探して  
みよう

講話・話し合い

**3**  
伊都キャンパス実習を  
通して興味を引  
き出そう

**4**  
どんな2030年  
にしたい?  
自分のテーマを  
みつけて深掘り  
してみよう

講話・話し合い

**5**  
H29大雨被害の  
復興が今もつづく  
朝倉での実習

野外学習

**6**  
テーマについて自分が  
できることを考え  
て発表の準備をしよう

中間発表

**7**  
さあ! いよいよ  
最終発表だ!

発表へのまとめ

自己紹介を終えた後、SDGsという枠を超えて、みんなの興味があること・好きなことを付箋に書いてマッピング。付箋を貼るうちに、子どもたちみんなマイクラフトが好きということが判明。そしてチーム名はマイクラチームに決定。このワークショップで、お互いの興味や関心を知ると同時に、自分自身の興味についても考えることができた。

講話から、子どもたちはそれぞれの視点で興味をもち、それに調べる対象を決めた。「雨庭」の仕組みに関心を寄せたり、「スポーツハンティング」から人間と動物との共生の難しさを感じたり、「カブトガニの血液を使ったワクチン製造」から、人が生きていくためには動物を利用しなければならないが、動物を不幸にしてはいけないと考えたりした。

先生の講話の後、感想や発見を話し合い、「どんな2030年にしたい?」という議題のもと、自分のテーマを探したり、そのテーマを深掘りしたりするグループワークを行った。進度はバラバラだったが、各家庭で話し合い、宿題を頑張ることで、自分の興味のあるテーマを見つけることができた。

洪水が実際に起こった川や堤防、大きな被害に見舞われた小学校を見学。災害や台風に関心のあった子どもは、災害の被害を減らすにはどうすれば良いかや、生き物のすみかを残して工事をすることに興味を持った。雨庭を調べていた子どもは、「洪水を減らす」という機能に注目し、雨庭を増やすにはどうすれば良いかを考えるきっかけになった。

「気軽に雨庭、きれいな水ができる豊かな街」を目標にアイデアを考えたり、魚の絶滅の危機を回避するために自分達は何ができるのかを考えたり、「大雨のあとでまた動物が住めるようにするには?」というテーマで調べ学習を進めたり、子どもたちそれぞれに考えをまとめた。

マイクラチームのテーマは「みんなでつなぐ優しい世界」。はーちゃん、ともくん、みつちー、それぞれのアイデアで2022年現在の問題点を改善し、理想の2030年を目指すが、アイデアを実現するには、さまざまな話し合いや協力をすることが必要、とまとめた。

考えたこと・取り組んだこと



マイクラチーム

# 「みんなでつなぐ優しい世界」

マイクラチーム 安部家・亀井家／サポーター 川岸・高田・片山・進(高校生)



最終発表

## 魚の絶滅の危機について

はーちゃん

海の魚は今ままだと絶滅してしまいそうです。その原因には、さまざまなことが挙げられますが、特に海洋ゴミであるマイクロプラスチックについて調べました。海の生物や、環境、魚介類を食べる人間にまで被害が及ぶ、マイクロプラスチックを減らすために自分に何ができるのかを、実際に海岸に行って現状を確認し、次のアイデアを考えました。

- 現状を多くの人に知ってもらう
- 小・中学校で必須授業にする
- 海岸のゴミ拾いに小中学校を参加させる
- マイクロビーズを使用した商品は買わない、使用しないでほしいとメーカーに言う



発表の様子

## 気軽に雨庭、 きれいな水がふえる豊かな街

ともくん

人が使える水である淡水は実はとても少ないので、雨水を活用できていない現状について、アスファルトにより、雨水が地下に浸透しない、川海を汚染する、内水氾濫を起こすという、3つの問題に注目しました。これらの問題解決のために、

- 下水道に雨水浸透井を設置する
- マンションの屋上に雨庭と貯水タンクを作る
- 公園などのグラウンドの下には大きな貯水タンクを造る
- 公園はもちろん、庭にも小さな雨庭を増やして緑豊かにする
- きれいな地下水を、みんなの生活の中の水として役立てる

というアイデアを考え、実際に3つの小さな雨庭を作り、実験もしました。



環境マップ

## 大雨のあとで また動物が住めるようにするには?

みっちー

大雨などの災害の後、復興が行われます。人間にも動物にも優しい復興をするためにはどうすれば良いか考えました。現状には大きく3つの問題があります。1つ目は、大雨の災害やそのあとでの工事で魚がいなくなってしまう問題、2つ目は、災害後の工事で川を元のように戻さず、川底をつるつるにするなどしてしまうと、同じような災害が起きた時に、魚の逃げ場がなく、流されてしまう問題、3つ目は、復興をする際に、もとの川にどのような生物が住んでいたのかわからず、適切な環境を用意できないという問題です。これらの問題を解決するために次のアイデアを考えました。

- 生き物のことを調べる、人に聞く
- 生き物を引っ越ししてよいのか調べる、人に聞く
- 川づくりについて自分で何かできることはないか工事の人聞く、調べる。新しい方法を自分で考えてみる

## わるいことをする人が いない世界にしたい

こはちゃん

伊都キャンパスの森を探索した時、動物のすみかであるはずの森に空き缶などのゴミが落ちていることに気がつきました。ごみのポイ捨てだけに限らず、「わるいことをする人」がない世界になれば、話し合いもうまく進み、みんなのアイデアが実現できる優しい世界になると考えました。

### [3] ロケットアベンジャーズチーム

ロケアベの  
思考プロセスを  
みてみよう

【第1回-11回で話し合ったこと】



ロケットアベンジャーズでは、バックキャストという手法を使い、まずは2030年にどのような社会になってほしいかを皆で考えた。

3家族とも違った関心をもっており、自分が今好きなこと、気になっていることから、未来の社会の姿を想像した。そして話し合いの中で出てきたのが、人と生き物のすみわけをしたい、車の新しいあり方を考えたい、地球温暖化を止めたいという意見。一見バラバラに見えるが、どのビジョンにも「人間側も生き物側もどちらも楽しく暮らしたい」という気持ちがあった。そこでロケットアベンジャーズは「人間と生き物が仲良く暮らす社会」について考えることにした。



では、今は「人間と生き物が仲良く暮らす社会」なのか?次に私たちは、理想の社会との社会のギャップについて考えた。身の回りのことに目をこらすと、意外なことが見えてきた。生き物に必要な土をつくるはずの落ち葉が町で無駄になっていたり、新しい乗り物を受け入れる社会の体制がまだ整っていないかったり、そもそもエネルギーの自給率が、日本は他国と比べて低かったり…。自分の町での活動や調べ学習を通して、ギャップの中にどのような課題があるのかを探した。

**どういった社会になつてほしいか  
(願望/ビジョン)**

**START!**

課題が見えた後は、いよいよ解決策の発見。そのためのヒントは、ゲストの先生方の講義やフィールドワークの中にたくさん散りばめられていた。雨庭のお話、朝倉の災害復興の現場見学など、様々な体験を通して、課題を解決するために必要なアイデアや、実現が難しくなる現実の壁に気づいた。そこで私たちは、「私たちが次にできること」を考えてみることにした。明日から町で出来ることは?1人1人できることは?家族、サポーター関係なくコメントしあいながら、解決策を考えた。

**どんな現状で、どんな課題  
があるか(現状/課題)**

**1 チーム作り**



講話・話し合い

**2**  
**講話・話し合い**



発表へのまとめ

**3 中間発表**

**実現するためには  
どうすればいいか(解決策)**

**考えたこと・取り組んだこと**



ロケットアベンジャーズチーム

# 「二酸化炭素の削減」

ロケットアベンジャーズチーム 梅田家・松藤家・鷺見家  
センター サポーター 後藤・宗像・元谷・山田・佐久間(高校生)



福岡市科学館賞



AnGes  
宇宙賞

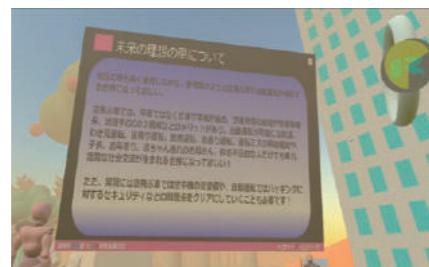


ずっと先まで、  
明るくできるで賞  
[九州電力]

## 人と車そして環境が共存する社会

### 梅田家の提案

車をテーマにCO<sub>2</sub>を削減する方法について考えました。まず、車のCO<sub>2</sub>排出量やCO<sub>2</sub>削減に向けた技術的な課題点について発表し、次に現在の企業の取り組みについて共有しました。そして最後に、未来の空飛ぶ車というアイデアから人と車そして環境が共存する社会について発表しました。



## 人の心も土もふかふかになる 「まちのふかふかプロジェクト」

### 松藤家の提案

SDGs家族会議の授業を通して、松藤家は人と生き物にとって安心安全な暮らしをテーマに、現実的な解決策のヒントを模索しました。そこで"身近なところから誰でもすぐにできること、楽しく続けられること"が重要だと気づきました。

そこで提案したのが、「まちのふかふかプロジェクト」です。落ち葉が地域の課題であることをヒントに、落ち葉を無くしたい人と欲しい人がマッチングできる仕組みです。落ち葉の効果は、腐葉土にすることで土の保水性が向上しそれに伴い災害発生を抑制できること、ゴミを資源とすることで燃焼時に出るCO<sub>2</sub>を削減できることが挙げられます。

そこで、地域の落ち葉拾いの場で実際にこの活動をやってみると、落ち葉の受け渡しに対するメリットだけでなく、幅広い世代にプロジェクトの意図が受け入れられ、地域住民で楽しく地球温暖化について考える機会が創出できました。

人の心も土もふかふかになる「まちのふかふかプロジェクト」。できることをできる範囲で始める大切さを学び、まずは自分の街から続けていきます。



発表の様子

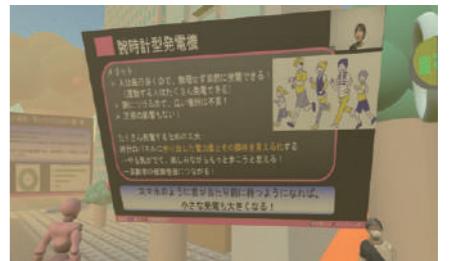
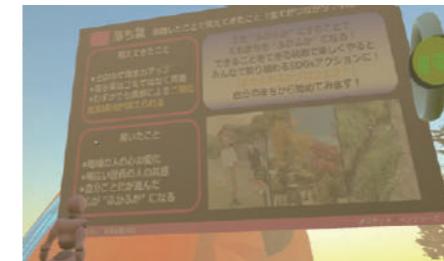
## 少量だけど、皆で楽しく取り組める 小型発電

### 鷺見家の提案

地球温暖化による科学的な予測の調べやまとめから始め、その対策としてあげられる再生可能エネルギーの利用の問題点も調べました。それで分かった3つの問題点をふまえつつ、二酸化炭素の排出量を皆で気軽に抑えるをためにはどうすべきかに興味を持った結果、腕時計型の小型発電機を考え付きました。この発電量はとても少量ですが、世界の皆で使用することで総量を大きくすることができます。また、使用者の地球環境に対する意識を上げていく事も可能だと思いますし、移動をしながら皆で楽しみつつ、簡単に二酸化炭素の排出の低減化に貢献できる点が大きなメリットだと思います。

また、発電量を見える化するなどのUIの工夫をデバイスに施し、ユーザーのやる気や続けて使用してもらうための持続心を保ってもらいます。

超高齢化社会がやってくる日本での高齢者の健康増進にもつながる所がこのアイデアのさらに良い点で、SDGsの概念を通し、将来の地球を持続可能な住みやすい星にするためにも皆で取り組んで行ければ良いなと思いました。



## ポケオミチーム

サポーター



梶原 悠矢



香西 紗良

子どもたちと5ヶ月間向き合い続けられたと思う。メンター同士も仲良くなれてよかったです。



西村 瑞紀

森本 彩桜  
(高校生)

子ども達と一緒にSDGsについて様々な角度から学ぶことができる貴重な機会だった。子どもたちのアウトプット創出は難しかったが、やりがいも大きかった。

## マイクラチーム

サポーター



片山 彩羽



川岸 勇介

限られた対面活動の中でもチームの仲を最大限深め、お互いの疑問や気づきから学び合うことが出来たように思う。



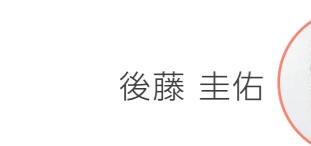
高田 美子

進 愛菜  
(高校生)

いろんな世代の子どもたちがいて、それぞれ見方や考え方で違っていて面白かった。自分と違う意見を聞ける良い機会になった。

## ロケットアベンジャーズチーム

サポーター



後藤 圭佑



宗像 穂乃香

子どもたちに話してもらったほうがいいのか、家族で大人の意見も話してもらった方がよいのか迷った。次の機会があれば、方針を固めて挑みたい。



元谷 臣吾

自分自身もSDGsの勉強になった。SDGsを疑う視点も必要かも?子どもたちに苦手なアウトプットをしてもらえるように努めた。



山田 あづさ

子ども達の外向けの顔だけでなく保護者の前で見せる顔も見れたのは貴重な経験だった。さらに保護者の方も含めた話し合いで進行役を務めた回は戸惑ったが、同グループのメンターに助けられ多様な意見のまとめ方を学べたことは大きな実りとなった。

佐久間 萌依  
(高校生)

子どもたちの興味が初めは分散していて、まとめるのに時間がかかってしまった。子どもだけのグループで話し合う会議もやってみたいな。

## 西村俊彦

SDGs家族会議審査員長



## SDGs家族会議in FUKUOKA(第2回)グループワークを振り返って

令和4年12月18日に第2回SDGs家族会議の発表会を福岡市科学館で聞きました。参加家族の皆さん、関係者の皆さん、ご苦労様でした。発表会は7家族3チームがロケアベ、ポケオミ、マイクラとしてユニークで素晴らしい物でした。特徴は小学生低学年からのワクワク発表。高校生サポーターのお姉さんばかり。伊都キャンパス、朝倉フィールドワーク共有でした。発表は人と動物の共生。まち、水、土の豊かさ。子供の発表を温かい目で見守るサポーターと家族。子供の伸びしろに驚きました。だからこそ、難しかったグループワークを上手に進行し、モチベーション維持と安全確保などに配慮したリーダー、サポーター、保護者のチームワークに感謝しながら見ていました。グループワークの重要性が際立ちました。参加者の子ども達は澆刺(はつらつ)とし自信に満ちていました。その陰に高校生、大学生、院生、保護者たちの思いが明確に見えました。まさしく家族会議であり地域コミュニティ会議の場でした。それぞれの発表には人が動物、雨、水、川、海などの自然と仲良くする方法。今できることから始める。人に伝えたいな、でした。日本カワウソが絶滅したこと、カブトガニの血が青いこと、雨庭など、SDGs家族会議を通じて学んだのは子ども達だけでなく家族全員と我々だったと思います。

## 中川 普巳重

ワークショッピングリーダー



## 「わくわくの未来」につながることを信じて

講座開始直前まで悩むグループ分けはご縁の始まりの大重要な要素です。そして、蓋を開けてみないとわからない「わくわく」がいっぱい詰まった講座初日。メンターの皆さんも、参加者のみなさんも少し緊張していましたね。講座が進むにつれて、お互いの個性が見えてきて、グループとしての交点を求めて話し合いを重ねていきました。そして、個々の興味関心を大切にしながら、グループ全体で目指すテーマを決めました。講座を通じて子供の成長を間近で見ることができた、家とは違った姿を見ることができた、家族みんなで共通テーマについて話し合う機会となった、グループワークという相乗効果で興味関心の対象が広がった、人との関わり方を体感した、講義を通じて世界への窓が開いた、サポーターという身近な大人の存在からたくさんさんの影響を受けた、などなど「SDGsを学びしゃべって考える」ことを通じて体感できたことは、この講座に関わったすべての人の中に新しいアンテナをたくさん立て感度良く受信することで「わくわくの未来」につながっていく信じています。最終日のみなさんの笑顔、ほっとした表情、また会おう!と約束しているきらきらの目を思い出しながら、このコメントを書いています。引き続きご縁を大事に、また会いましょう!!!

## 審査員

- 西村 俊彦 福岡市科学館 顧問, SDGs家族会議 審査委員長
- 矢原 徹一 福岡市科学館 館長, 九州大学大学院理学研究院 名誉教授
- 中川 普巳重 福岡大学 研究推進部 客員教授,  
産学官連携センター 産学官連携コーディネーター
- 岩根 修一 RKB毎日放送株式会社 メディアイノベーションセンター プロデューサー
- 龍興 彩香 嘉穂無線ホールディングス株式会社 経営企画部
- 相良 遥加 九州電力株式会社 地域共生本部 エネルギー広報グループ
- 上田 幸史 九州旅客鉄道株式会社 事業開発本部 開発部 企画開発課
- 武藤 千佳 西部ガスホールディングス株式会社 広報部 広報戦略グループ
- 山田 英 アンジェス株式会社 代表取締役社長

※敬称略

## SDGs家族会議 in FUKUOKA事務局

- 西村 俊彦 福岡市科学館 顧問,  
スタンフォード大学医学部麻酔科・創薬医療機器開発研究所 所長
- 吉武 秀平 福岡市科学館 事務局長
- 上田 恒子 福岡市科学館 事業推進責任者
- 江口 久美 九州オープンユニバーシティ研究部 研究員
- 内野 亜沙美 Foot Mark
- 板垣 早織 福岡市科学館 企画
- 崎山 祥子 福岡市科学館 広報

※敬称略

第1回SDGs家族会議(2021年7月~12月)の報告はこちらの概要ページから→



## 協 力



福岡市科学館3階受付前にあるエリア「連携スクエア」では、持続可能な開発目標(SDGs)をテーマに当事業協力企業各社の取り組みをブースにて紹介しています。



## 協 賛

遺伝子医薬のグローバルリーダーを目指して

